

## 乾物の未来を拓くものづくり

くろだ こうぎょう  
黒田工業株式会社



代表取締役 黒田 治寿 氏



### 椎茸用乾燥機の製造が転機に

福山市内にはいわゆるナンバーワン、オンリーワン企業が少なくないが、業務用乾燥機の分野で幅広いユーザーを獲得している黒田工業(株)(福山市新浜町)は、業界内での技術力が高く評価されている。食品業界を中心に、医療化成品や工業用など産業分野でも事業展開。特に食品乾燥機としてロングセラーを誇る「リーダー食品乾燥機」は、累計5万台以上の販売実績がある。

黒田治寿社長は高校、大学とラグビーに打ち込んだスポーツマン。ものづくりに対する熱意や同社の歩み、将来展望などを語ってもらった。

黒田工業(株)は1946年(昭和21年)9月、福山市地吹町で創立された。当時の社名は黒田鉄工所。主力製品は麦を平たく押し潰す「押し機」だった。

転機は1963年(昭和38年)。椎茸用乾燥機の製造を開始したことだ。椎茸の乾燥は天日干しが中心だったが、屋外で乾燥するため衛生上の問題があったことに加え、色も黒くなりがちで見栄えが良くなかった。宮崎県の農協から話が持ち込まれ、2年間かけて開発。そうして完成、販売に至ったのが現在まで50年以上のロングセラーとなっている「リーダー食品乾燥機」である。

タイプも用意している。

食品業界以外にも産業分野、特に化成品メーカーに取引先が広がっている。「食品業界は競争が激しいが、産業用乾燥機は新規参入が少ない」と黒田社長。新規の納入は困難な面もあるが、一旦納入できれば長い取引になる。

### オーダーに対する柔軟な対応力が強み

もともと同社の場合、「まったく取引がない会社から取引の声が掛かることが少なくない」という。機械を納入している企業からの紹介を受けて連絡してくるそうだ。「大手から声を掛けていたことも多い。真面目に仕事をして実績を積んでいることが効を奏しているようです」と話す。

工場にはリーダーを見学に来る人のための試験機を四種類も用意している。熱風は上から下へ送られるタイプ、横へ送るタイプなどだ。このように多様な試験機を置いているメーカーは珍しい。

黒田社長は自社の強みを「お客さまのオーダーに対する対応力」と話す。リーダー以外の乾燥機は基本的にオーダーメイドになる。それだけに取引先の要望を可能な限り実現しようと綿密な打ち合わせを欠かさない。その結果、取引先は北海道から沖縄まで全国に広がる。海外もスリランカやフィリピンなどアジアを中心に広がりを見せている。

同じ乾燥機といっても食品用と産業用では当然のことながら仕様が異なる。食品は元々、どんな素材でも水分が多いため、熱風量が大きくなる。一方で工業製品は風量も熱量もそれほど多くは必要ない。そうした違いも考慮しながら機械を一台ずつ設計していく。「まったく同じ物でない限り、



### 黒田工業(株)

- 所在地 福山市新浜町二丁目4-28
- TEL (084) 954-0246
- FAX (084) 954-0545
- ホームページ <http://www.kuroda-dryer.co.jp>

一台一台面倒がらずに設計します。お客さまはそういう所をよく見ていると思います」と話す。

製造業は人手不足に悩む企業が多い。同社は40〜50歳代の世代が少ないという悩みはあるものの、若い従業員が多く活気にあふれる。「設計、製造、販売まで一貫してやっているので、自分の会社は何を作っているかが明確。それがやり甲斐につながっているのでは」と話す。また「必要があれば私も現場に入るので、現場の人や若い人との距離が近い」と自負する。

休日小学生の2人の息子の少年野球に付き合っていることが多いという。高校から大学を通じてラグビーに打ち込んだスポーツマンの黒田社長。「40歳からボクシングを始めました」と笑う。今後は「乾燥機メーカーとしての認知度を高めたい」と意気込む。「他人の利益を問わずに自分たちの繁栄はない」と考える黒田社長。これからも取引先の利益になる機械を提供していく決意だ。

(取材・文 ビジネス情報 塩田 聡)



▲各種乾燥機の製造、試作品の試作などを行う工場

▲昭和38年発売以来のロングセラー「リーダー食品乾燥機」。改良を重ね、椎茸生産者など食材生産業、食品加工業などから5万台以上受注する。棚式食品乾燥機では国内でトップシェアを誇る。



▼食品用乾燥機、工業用乾燥機、産業用乾燥装置など幅広く使用されているオーダーメイドの「産業用乾燥機」